

読者の声



能登半島地震を受けて熊本地震を振り返る

2024年1月1日能登半島地震のニュースが入ったとき、日本中に激震が走り、私が実際に経験した熊本地震を思い出しました。能登半島地震で被災された方々の現状を目にするといても立っても居られず、今この想いを書き進めています。

当院は主に整形外科領域の手術を担っており、被災した後のリハビリテーションをどのように進めていくか、次から次へと決断の連続でした。入院患者さんにおいては想像もしていなかった入院生活のなかでも、職員へ温かい言葉をかけてくださる方々ばかりだったことを覚えています。私は理学療法士であり母親でもあるため、地震発生後は小学校や保育園が閉鎖になったので、子どもたち3人と一緒に出勤し、1歳の子を背中におんぶして理学療法をしました。あの背中の重み＝責任は今でも忘れられません。

あれから8年。つい先日、熊本地震時に手術した患者さんが入院され、当時、背中におんぶしてリハビリテーションしていたことを覚えていて「あの子はいくつになったね?!」と尋ねられました。その子は今年で10歳、2分の1成人式を迎えます。

熊本地震を振り返ると、経験したことのない状況に直面し、予測・判断・決断を繰り返していくなかで、命の尊さ、人間の温かみを痛感した出来事でした。

私たち理学療法士は人体の構造や機能、心身の発達、病気や障害と回復過程などについて学んでいるので、医療施設以外においても、目の前で困っている人々へ何らかの手助けが可能な知識と経験を備えています。望まない環境下においても自らが備えている力を目の前で必要とする方々に提供し、一つひとつ乗り越えていきたい想いです。

このたび、能登半島地震によって大変な状況にある方々へ「みんなの想いが届き、再び平穏な日常が一日も早く戻ってきますように」、心より祈念申し上げます。

米村宏美 南部中央病院(熊本県熊本市)